

対策は、農閑期の振り返りが肝心！

(対策の成果と課題を記録し、翌年産に活用しましょう！)



1. 栽培後の集落環境診断 ~効果確認と課題さがし~

*ポイント

- ①現地を見る上での要点（防護柵の状態・獣道や足跡・被害を受けた圃場・放任果樹・耕作放棄地等）を整理する。
- ②集落の概要（圃場・河川等の水路・道路・住宅）が分かる地図を用意する。
- ③要点を参考に現地を見て回り、現状を地図に書き込む。

・集落環境診断を行う場合は、非農家を含む幅広い住民参加が効果的です。

2. 診断図づくり ~対策の成果・課題の「見える化」と情報共有~

*ポイント

- ①集落の概要が分かる地図（A2判以上の大きいもの）を用意する。
- ②地図上に、集落環境診断により分かったこと（作成例内を参照）を記入する。
- ③鳥獣被害対策の成果・新たに生じた被害等を書き足し、情報共有を図る。
- ④本年産対策を記録として残し、より効果的な対策を考える材料とする。



・診断図を繰り返し利用することで、対策の進み具合も確認できます。